

愛知私学がすすめる「21世紀型学び」

2017年3月11日 名古屋高校 藤村宏明

はじめに・・・東海の諸先生や父母の方々には「親戚のような親近感」を抱いています。

I トランプ米大統領当選にみられる「ポピュリズム」の広がり「主権者教育」

*水島治郎著『ポピュリズムとは何か』(中公新書)より

(1) 民主主義の先進地域の欧州で「ポピュリズム政党」が伸張
⇒既成政党批判、移民・外国人排斥、EU批判

(2) ポピュリズムの定義・・・

- ① 固定的な支持基盤を超え、幅広く国民に直接訴える政治スタイル。
- ② 「民衆」の立場から既成政治やエリートを批判する政治運動

(3) ポピュリズムの影響

・デモクラシーの発展に寄与する側面

- ① 政治から排除された周縁的な集団の政治参加を促進
- ② 政治そのものの復権を促す

・デモクラシーの発展を阻害する側面

- ① 多数派原則を重視するあまり、弱者やマイノリティの権利が無視される
- ② 政治的対立や紛争が急進化する危険
- ③ 投票によって一挙に決することを重視し、制度や司法機関の権限を制約

「ポピュリズムは、デモクラシーの後を影のようについてくる」

(マーガレット・カノバン)

◆デモクラシーの手ごわい「内なる敵」にのみ込まれない、主権者としての「政治的教養」と「人権感覚」の涵養を

II 教育の「2020年問題」について

(1) 大学入試改革

- ① センター試験を廃止し、「大学入学希望者学力評価テスト」(仮称)へ
⇒思考力・判断力・表現力を問う
選択式や記述式など多様な出題形式に
英語は4技能(読む・聞く・書く・話す)を問う科目へ

② 「高校基礎学力テスト」(仮称)の導入

⇒高校で身につけるべき学力の到達度を確保するもので、高2や高1の受験も検討されている

(2) 学習指導要領の改訂(小学校は2020年、中学は2021年、高校は2022年から)

- ① 英語は小学5年から正式教科に
- ② 中学英語の授業は、原則英語で実施
- ③ 高校社会は、「歴史総合」を設け、必修科目とし、「公共」科目を新設
- ④ 学習方法として、「アクティブラーニング」を全ての教科で導入する

◆熊谷昭吾先生の詩『がっこうー変則学園』の紹介(別紙①)

III 生徒の「教育要求」はどこにあるのか?

⇒愛知私教連の生徒アンケートより(別紙②)

<花井宏幸先生の分析>

(1) 問1の「満足度」が毎年連続的に上昇、21世紀に入って13年間で13%上昇

⇒その要因

- ① 「のびのびと明るく生活できる」が顕著に上昇
- ② そのひとつとして「部活動」一入ってよかった理由「部活動」の上昇
*文化部27, 1%(全国12%)と文化部が全国平均の2倍以上
- ③ 決定的な影響をもつ自主活動一「生徒会」は連続的に向上、「学園祭」は停滞気味
- ④ 授業理解度は、「わかる」の上昇、「わからない」の下降
- ⑤ 「生活指導」はおおむね生徒に受け入れられているが、近年は若干の揺り戻しがみられる

★「公立希望」は学費と関係が深い。就学支援金によって、2009年(公立無償化+就学支援金前年)をピークに、「学費負担軽減要求」が減少傾向で、「公立が良かった」も減少傾向である。「公立入試失敗による失望感」は増加傾向に歯止めをかけた。私学助成運動がもたらした成果は、「生徒満足度向上」につながっているということに確信がもてる

<私学助成の課題>

(1) 愛知県に対して

大阪(年収600万円以下を無償化)、東京(年収760万円以下を無償化)、埼玉(年収600万円以下を無償化)につづいて、「愛知も無償化を！」

(2) 名古屋市に対して

「教育の機会均等」という崇高な理念にもとづき、県の授業料助成の対象にならない家庭に対し、「年収840万円～910万円には県乙Ⅱの50%」、「年収910万円～1130万円には県乙Ⅱの30%」とする算定基準がある。しかし、平成26年度以降、県は乙Ⅱランクを増額したが、名古屋市は、前述の基準にもとづく増額をせず、「4万2000円と2万4120円」になるところを、「2万6000円と1万5000円」に据え置いている。⇒「169万請願署名」の趣旨の早期実現を！

IV 愛知私学がすすめる「21世紀型学び」

(1) 「21世紀型学び」の核となる3つのキーワード
・「参加」・・・

・「共同」・・・

・「社会」・・・

⇒「2020年問題」や「ポピュリズム」を克服する学び！

★換言すれば、「大きな学力」を育む学びはすべて「21世紀型学び」

推薦図書・・・寺内義和著『大きな学力』・『されど波風体験』

(2) 「21世紀型学び」の群像

① 「希望プロジェクト2011」・・・藤村作『希望プロジェクト讃歌』より（別紙③）

② 愛知私教連21世紀型学び推進委員会の機関誌『21世紀型学び』（編集長・西村尚登先生）より

<東海関連の記事>

- ・西村尚登氏（英語科）「わかりやすく教えることをめざして40年」
- ・内藤俊一氏（数学科）「学習形態及び学習論としてのアクティブラーニング」
- ・西形久司氏（社会科）「100年かけて主権者になろう」
- ・森重文氏（東海OB・京都大学教授）「数学まなびはじめ一サマセミ講座から」
- ・魚住哲彦氏（東海学園副理事長）「サマーセミナーは愛知私学の英知と努力の結晶」

③ 授業改革フェスティバル（2月19日・於名古屋中高）より

◆12の公開授業、200の実践レポート、500の教材が終結した「全国最大の教育研究集会」！

<公開授業の例>

- ・歴史授業ドリームマッチ・・・「東海高」VS「名古屋高校」
- ・漱石の「こころ」の授業バトル・・・「早稲田大学・渡部教授」VS「愛知私学の若手チーム」
- ・「ザ・ナマモノ」授業バトル・・・「ブタの解剖」VS「ニワトリの解剖」
- ・ICT授業バトル・・・「杜若高」VS「愛知私学青年協代表」
- ・主権者教育コラボ授業・・・「同朋高校」VS「安城学園」

<東海からの参加例>

- ・熊谷先生（世界史）の公開授業
- ・余語先生（家庭科）の「被服の公開授業」
- ・折井先生（英語科）の「英語コミュニケーション授業」の実践レポート
- ・鈴木知先生（英語科）の「TED・ED」の実践レポート
- ・伊藤友先生（数学科）の「美杉アカデミックキャンプ」レポート
- ・全教科のオリジナルテキストや問題集等

さいごに・・・東海父母懇に期待すること

◆熊谷昭吾先生の詩『母の時代、母へ』の紹介（別紙①）